

## いしかわの森づくり検討委員会現地調査要旨

- 1 日時 平成16年8月25日(水) 9:00~14:50
- 2 場所 白峰村字白峰地内
- 3 出席状況 出席委員 9名(全委員13名) 谷本県知事
- 4 概要

(1) 現地調査事前説明会(白山セミナー望岳苑)

県内の手入れ不足林等の状況について、ビデオ放映  
水源かん養機能を育む森林土壌について、説明

(2) 森林・林業の取り組み事例について

水源地域における林業について(杉田 長太郎 氏)

自ら営む木材・造林業の経験を通じて、水源地域における森林・林業の  
現状と今後の森林整備にあたっての問題点について話をする。

(3) 手入れ不足林調査(白峰村西山地区)

・間伐等の手入れを行っていない森林の現況と土壌の状態について調査。

(4) 手入れ林調査(白峰村そぶ池地区)

・間伐等の手入れを行った森林の現況と土壌の状態について調査。

5 主な発言内容

- ・安い外材の柱材(2,200円/本)に対応するため、30~40年生のスギ柱材を2,300円/本で売っているが、この場合、立木価格を0(タダ)にしないと採算がとれない状態である。
- ・国内産業を保護しようとしているのに、農林水産物で木材だけが関税がない。
- ・40坪2,000万円の住宅に占める柱材は、20万円程度である。
- ・近年、中国では北洋材等の木材輸入量が増えてきている。
- ・加賀地区で、木材流通拠点施設ができたが、能登地区では、製材等の各施設がまとまっていない。
- ・森林は、木材生産という経済林としての機能だけでなく、この機能に勝るとも劣らない水源かん養、国土保全等の公益的機能を有している。
- ・経済林でありながら、所有者が林業経営の意欲を失ったことにより、森林整備が遅れ、公益的機能が低下している森林が増えてきている。
- ・森林所有者の意向を踏まえながら、森林の公益的機能を維持していく仕組みを今後、検討委員会で考えていかなければならない。
- ・現地調査を実施して、森林の公益的機能の重要性について、改めて認識した。

